

2023年11月15日  
日本銀行富山事務所長  
田中英敬

## 「富山県金融経済クォーター（2023年秋）」について

- ・ 本日、「富山県金融経済クォーター（2023年秋）」を公表しました。

### （景気判断）

- ・ 今回、富山県の景気判断は、「緩やかに回復している」と3四半期ぶりに判断を引き上げました（2023年冬<2月>から前回まで3回連続で「持ち直している」と判断していました）。
- ・ 項目別には、個人消費を「物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している」に判断を引き上げた（前回まで2回連続で「着実に持ち直している」と判断していました）ほか、雇用・所得環境は「着実に持ち直している」に判断を引き上げました（2021年秋<11月>から前回まで8回連続で「緩やかに持ち直している」と判断していました）。

### （全体感）

- ・ 富山県の景気は、生産面ではIT関連を中心に海外需要の影響を受けて弱含んでいますが、サービス消費を中心に個人消費が増加していることから、前回までの「持ち直している」から判断を引き上げ、「緩やかに回復している」としました。

新型コロナの感染が拡大した2020年春に大きく景気が悪化しましたが、その後は長く「持ち直し」の局面が続いていました。また、時々の感染状況を反映して景気もストップアンドゴーを繰り返す苦しい期間でもありました。今般ようやく、そうした状況から頭一つ抜け出して「回復」の局面に入ったと判断しています。

- ・ こうした判断の背景として、繰り越し（ペントアップ）需要の顕現化と、春闘等の賃上げの好影響がはっきりとしてきたことがあります。すなわち、足もとのペントアップ需要や季節性の需要増が景気を押し上げていますが、これらはいずれかのタイミングで剥落することを見込んでいます。この剥落分を、足もとから先行きの賃上げとこれに伴う消費増によってうまくバトンタッチできる、そのような道筋が付きつつあると判断しました。

- ・ 少し詳しくみると、新型コロナの感染拡大以降、外出や消費を我慢して繰り越すとといった消費者行動が続いていましたが、今年春のコロナ5類移行後、ペントアップ需要の顕現化がよりはっきりしてきました。最近では、県内主要観光地への入り込みは夏場の大雨や猛暑の影響を受けつつも順調に回復しているほか、先行き秋の紅葉シーズンや冬場に向けた宿泊・観光需要にも手応えが出ているようです。また、百貨店・スーパーや商業施設等でも、外出機会の増加に伴って衣料品や化粧品・雑貨等の購入が増加しているほか、各種催事も好調のようです。これらに加えて、最近では猛暑や残暑が季節商材や季節家電の販売を押し上げています。
- ・ こうした中、今年の春闘では二十数年振りの賃上げで妥結したほか、夏季賞与の増加、最低賃金の引き上げなど、雇用・所得環境は着実に持ち直しています。足もとまで消費者物価の上昇が続いていることから、消費者の生活防衛的な節約志向の強まりが引き続きみられますが、今のところ賃上げの好影響もあって、消費者マインドをしっかりと下支えし、個人消費全体の底上げに貢献しています。

### **(先行きの見方)**

- ・ 景気の先行きをみるうえで、以下の2点に注目しています。

第一は、ペントアップ需要から、賃上げと消費の好循環に円滑にバトンタッチできるか、引き続き見極めが必要です。足もとの原油市況の上昇等もあって、当面、物価上昇は持続する見通しです。賃金上昇によってこれを打ち返すシナリオですが、賃上げの幅や広がり、ペントアップ需要剥落のタイミングによって、好循環のパワーは左右されます。注意深くフォローする必要があります。

第二は、海外景気減速の影響です。足もとの生産は、IT関連を中心に海外需要の影響を受けて弱含んでいます。電気機械ではスマートフォン向け等の減少は下げ止まっていますが、そのまま横這い圏内にとどまっています。また、はん用・生産用・業務用機械では、海外需要の下振れから新規受注の持ち直しが後ずれしており、このところ弱含んでいます。海外景気が下振れている中、来年以降の持ち直し時期に不透明感が増しており、県内企業の生産にも悪影響を及ぼしつつあります。現時点では県内企業の収益状況は良好ですが、情勢によっては来春の賃上げにも悪影響を及ぼす可能性もあり、注視が必要だと考えています。

以 上